

滋賀県文化振興基本方針(第3次)の進捗状況について(令和4年度)

施策の柱1 場をつくる

県民誰もが文化芸術に親しみ、多様な主体や世代等がつながる場をつくる

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 評価と課題

1 施策の実施状況

重点施策1 誰もが文化芸術に親しめる場の提供

- 県立美術館を令和3年6月27日にリニューアルオープンし2年目を迎えた。ジャンルの異なる3本の企画展および2本の常設展を開催し、鑑賞の機会を提供することで延べ70,523人が展覧会を観覧。また、美術の楽しさを知っていただく機会として地域連携プログラムを52回実施し、2,482人が参加。
- 「ホールの子」事業では、従来びわ湖ホールまでの交通費について学校負担から全額県の補助としたことにより、参加校が大幅に増加し、9,853人の児童がオーケストラの演奏を鑑賞。
- 滋賀次世代文化芸術センターの文化芸術連携授業ではオンラインを活用するなどし、子ども・若者が文化芸術に触れられる機会を創出。

重点施策2 多様な主体がつながる文化芸術活動の促進

- 「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト推進補助金を実施し、県内各地で行われているアートや暮らしの中にある美の資源を活用して地域を元気にする取組(8団体)を支援。
- 第52回滋賀県芸術文化祭を実施し、主催事業・参加事業あわせて333,880人が来場。また、美術展、写真展、文学祭において計595作品が入賞・入選。文化芸術の鑑賞機会を広く提供するとともに創作活動の発表の場を提供。
- 障害者等の多様な人が集える場づくりに向けて、「障害者の文化芸術活動を支える拠点づくり事業」を実施。県内2地域(長浜市・守山市)での場づくりの取組や関係者のネットワークづくりに向けたオンラインイベント等を実施。

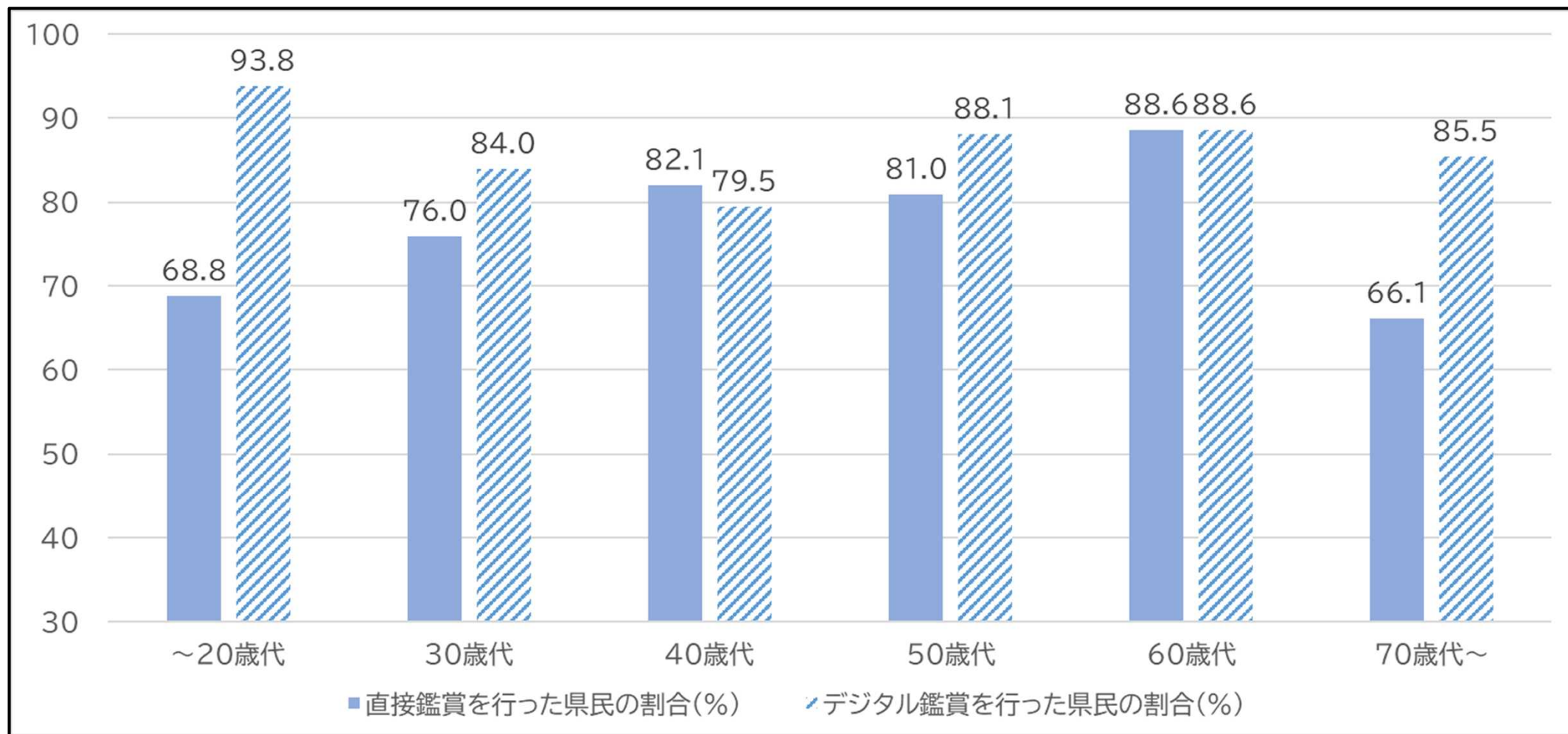
2 評価指標の状況

評価指標 (把握方法／把握時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
① 1 年間に文化芸術を鑑賞したことの ある県民の割合 (県政モニター調査／4 年 1 1 月)	73.7※	62.9※	84.4	93.4				85.0%
②文化芸術活動に取り組むことができ る環境が整っているとする県民の割合 (県政世論調査／4 年 7 月)	38.4	39.4	41.1	34.2				50.0%
③学校と連携した文化芸術プログラムの 参加児童数 (県事業の実績から算出／4 年 5 月)	22,699	9,707	16,623	21,154				26,000人
④民間団体や市町等と連携した文化芸 術事業実施数 (県事業の実績から算出／4 年 5 月)	369	256	298	364				420件

※直接鑑賞のみの割合

3 関連する情報

「①1年間に文化芸術を鑑賞したことのある県民の割合」(年代別・鑑賞方法別)



(参考) 県政モニターアンケート 有効回答数:228人

①県政モニターの年代別人数

～20歳代…16人、30歳代…25人、40歳代…39人、50歳代…42人、60歳代…44人、70歳代～…62人

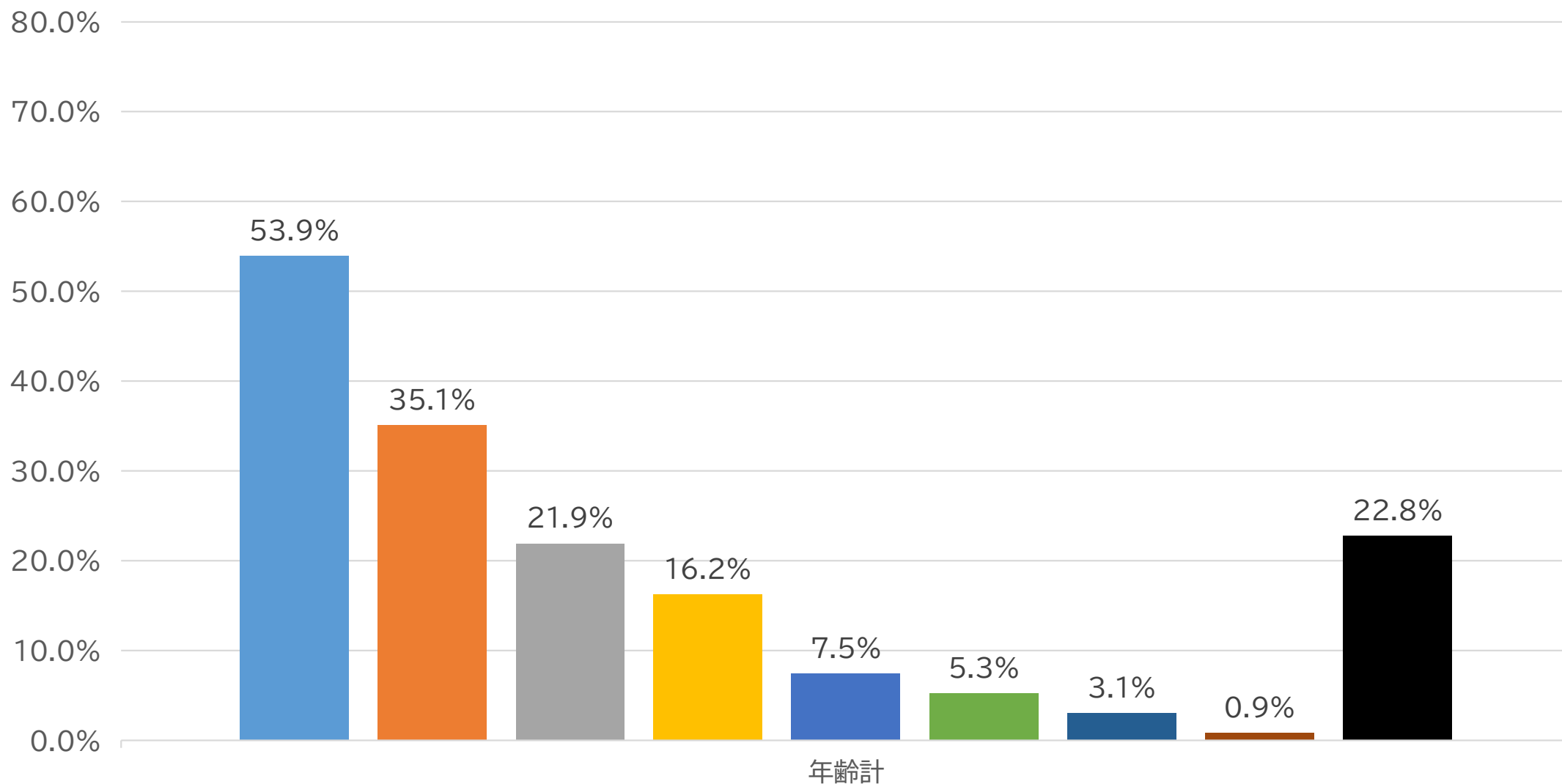
②県政モニターの地域別人数

大津…53人、湖南…54人、甲賀…26人、東近江…35人、湖東…29人、湖北…23人、湖西…8人

3 関連する情報

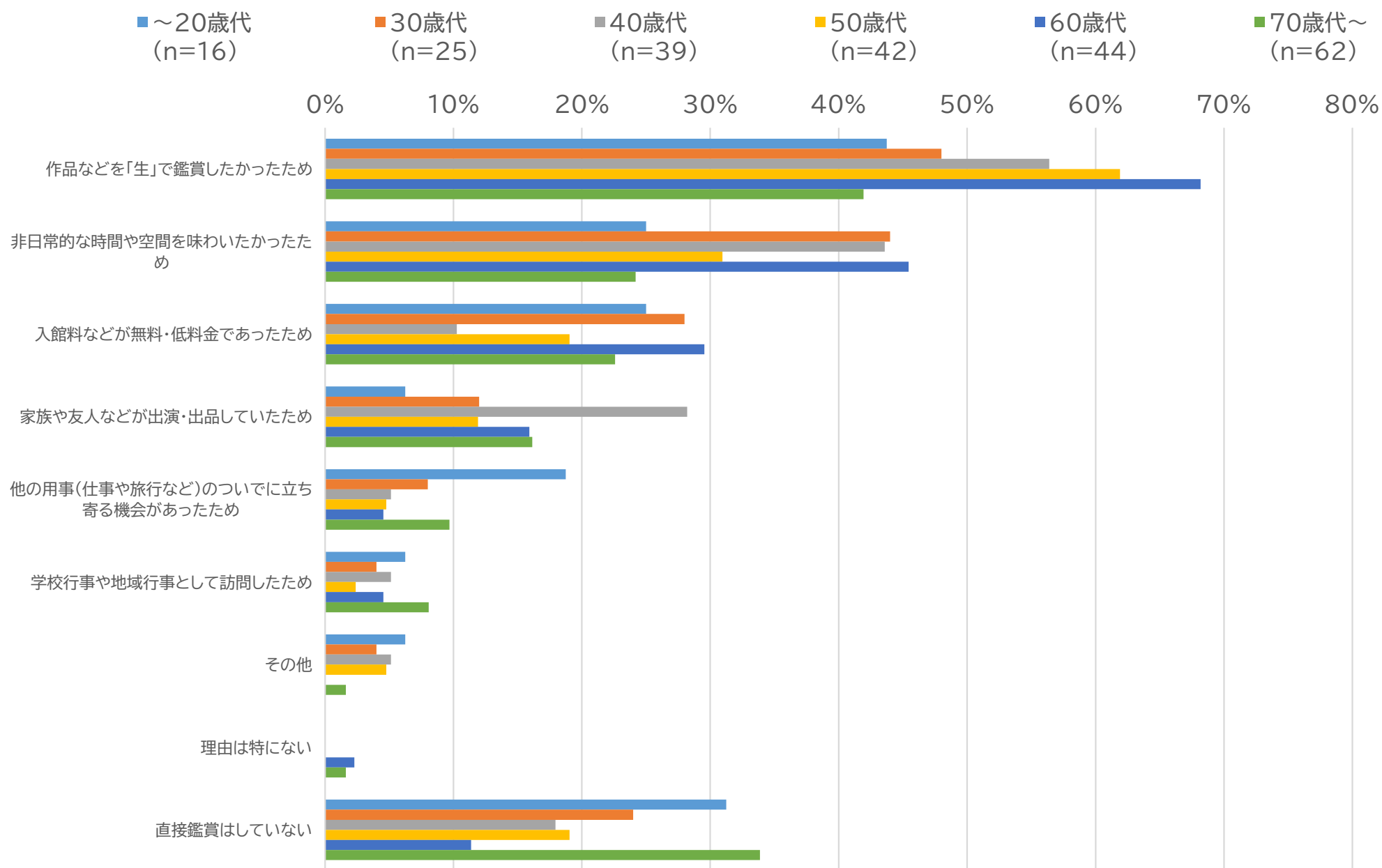
直接鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)(n=228) ※複数回答可

- 作品などを「生」で鑑賞したかったため
- 入館料などが無料・低料金であったため
- 他の用事(仕事や旅行など)のついでに立ち寄る機会があったため
- その他
- 直接鑑賞はしていない
- 非日常的な時間や空間を味わいたかったため
- 家族や友人などが出演・出品していたため
- 学校行事や地域行事として訪問したため
- 理由は特にな



3 関連する情報

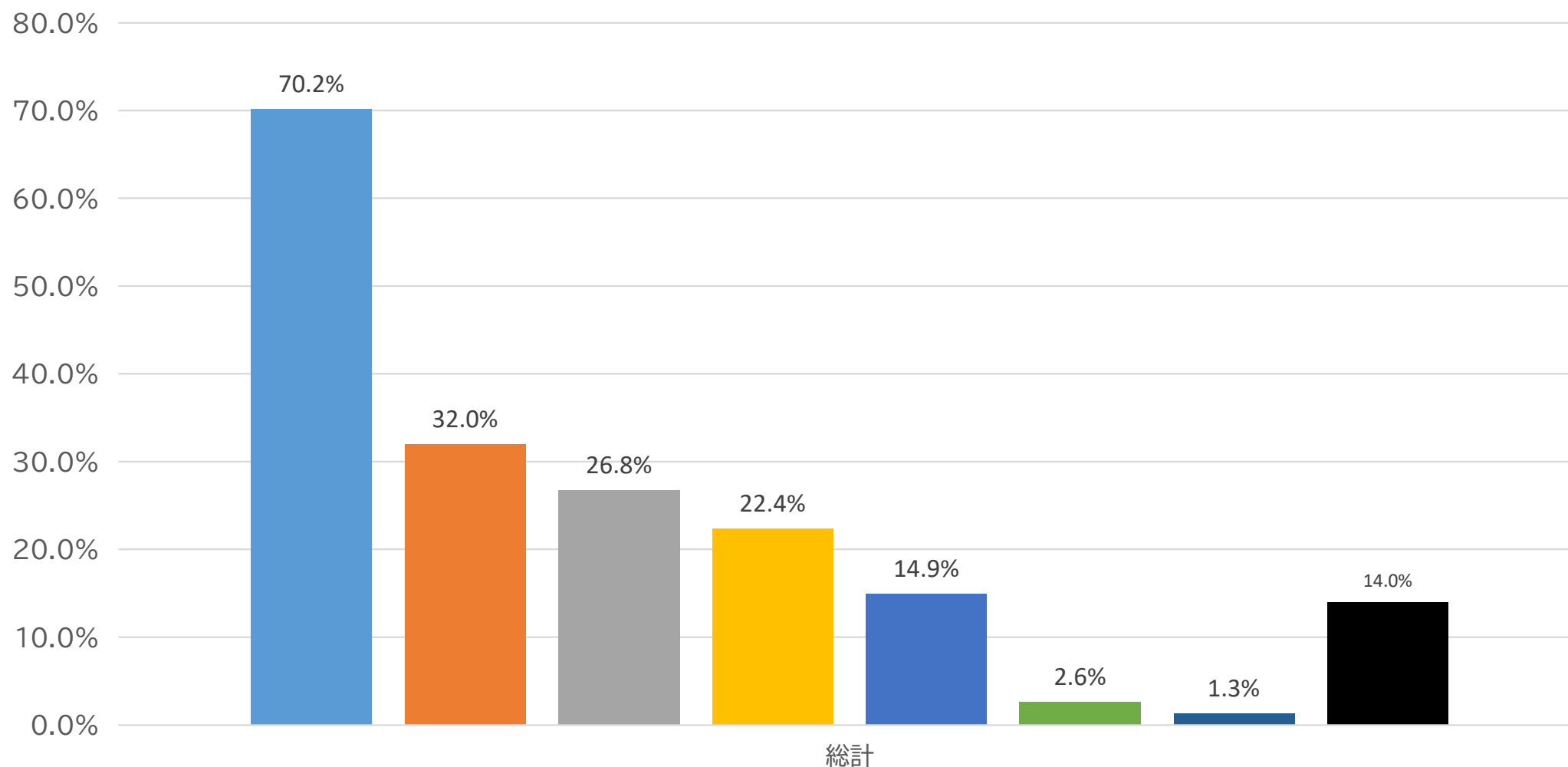
直接鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

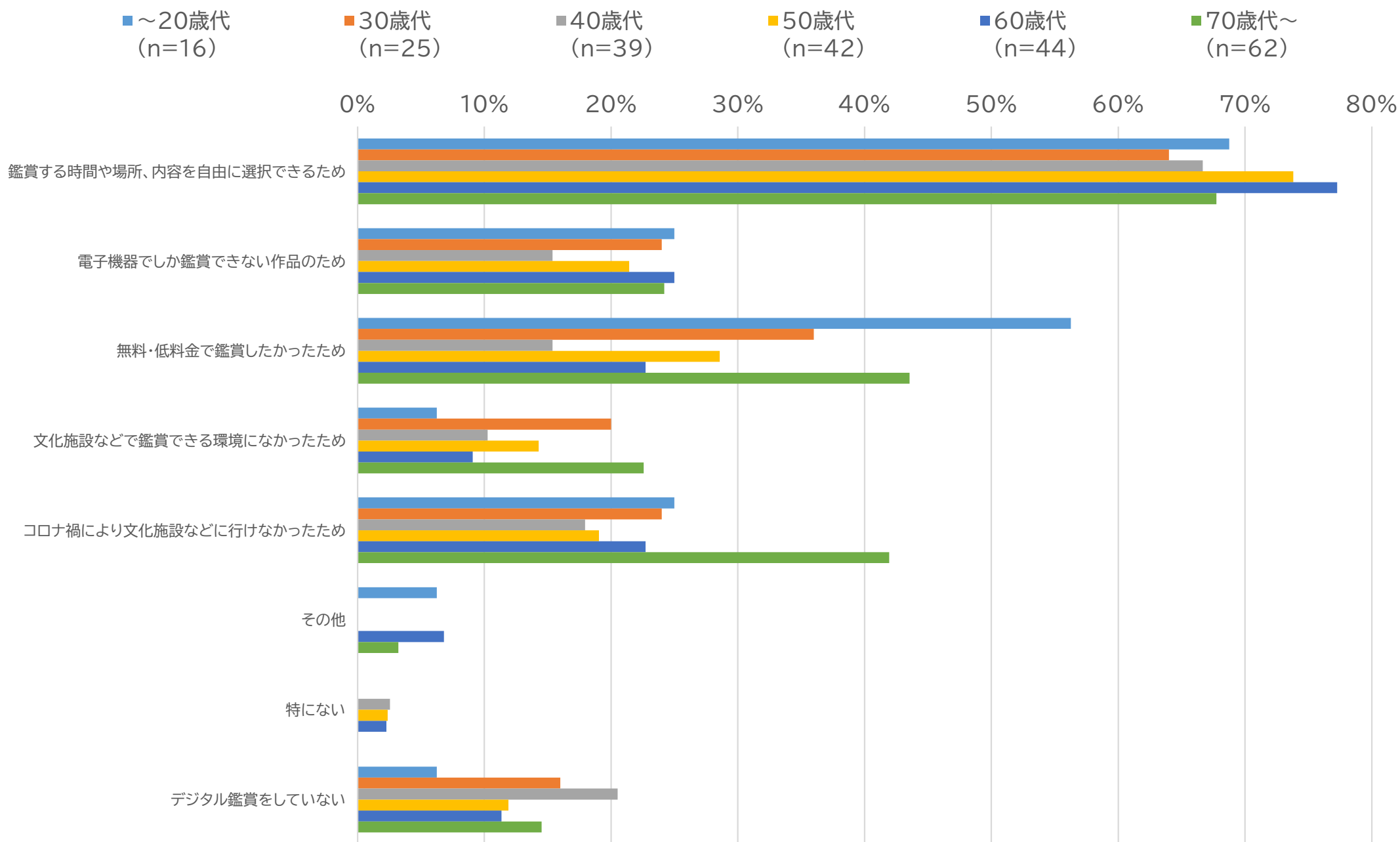
デジタル鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)(n=228) ※複数回答可

- 鑑賞する時間や場所、内容を自由に選択できるため
- 無料・低料金で鑑賞したかったため
- コロナ禍により文化施設などに行けなかったため
- 電子機器でしか鑑賞できない作品のため
- 文化施設などで鑑賞できる環境になかったため
- その他
- 理由は特にない
- デジタル鑑賞をしていない



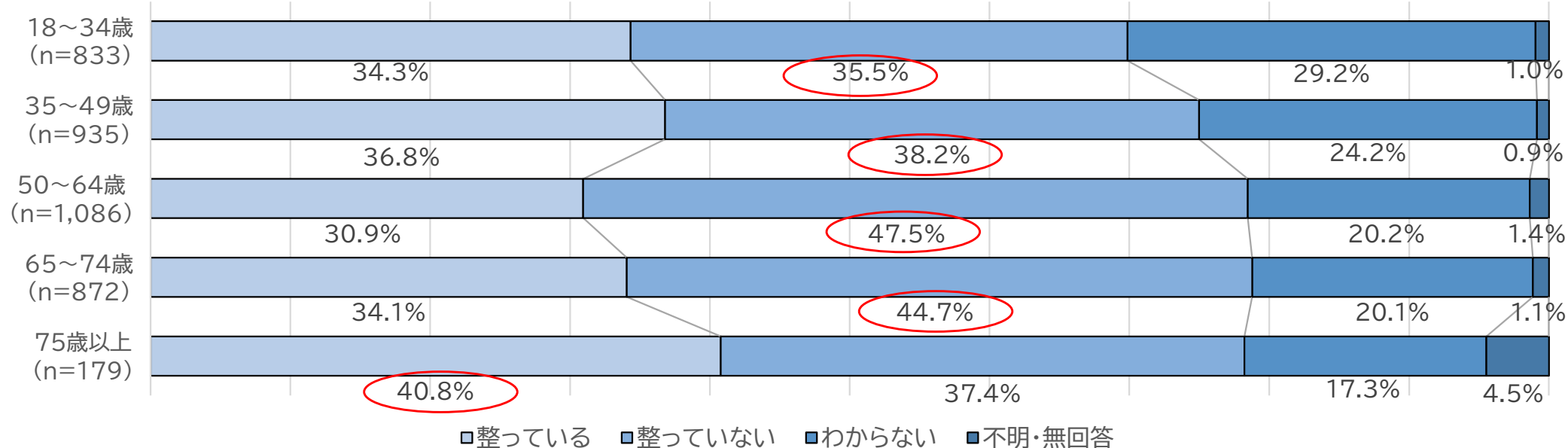
3 関連する情報

デジタル鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)(年代別) ※複数回答可

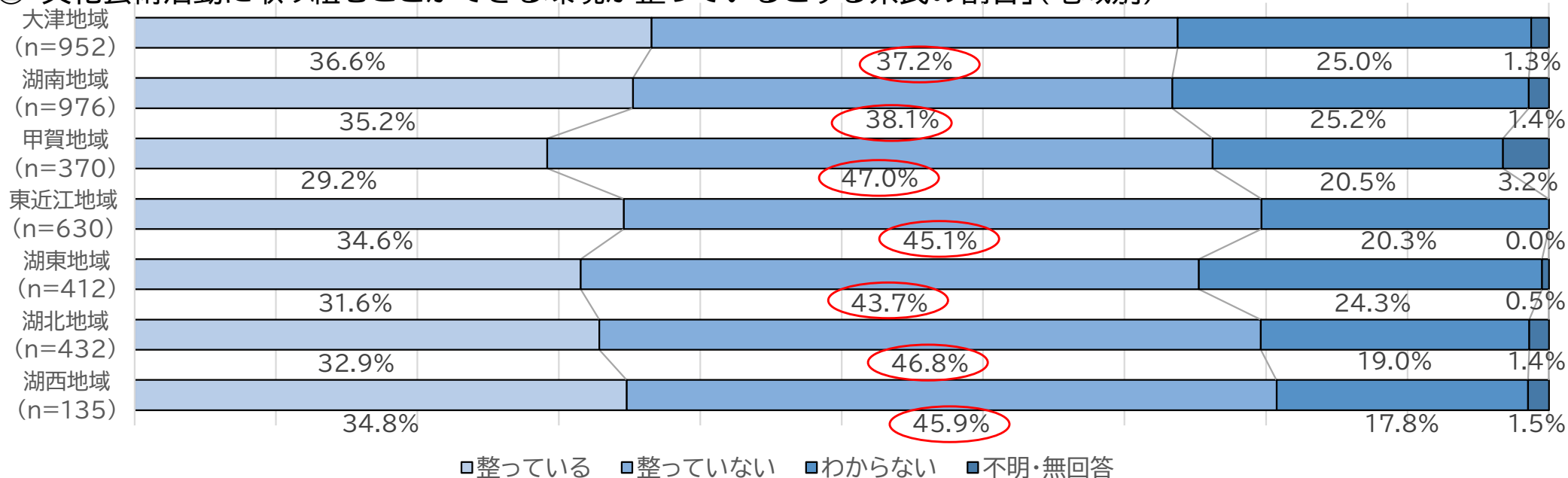


3 関連する情報

②「文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合」(年代別)



②「文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合」(地域別)



3 関連する情報

「③学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数」(地域別)

(単位:人)

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	合計
「ホールの子」事業	2,273	2,765	819	1,286	1,377	896	437	9,853
学校巡回公演	20	0	580	0	263	437	0	1,300
ふれあい音楽教室	41	1,058	274	577	472	254	0	2,676
和のじかん	181	171	53	28	262	42	41	778
文化芸術連携授業	1,387	2,296	251	13	451	217	0	4,615
美ココロ・プログラム	117	174	14	0	0	0	0	305
学校出前授業プログラム	30	536	306	263	393	99	0	1,627
合計	4,049	7,000	2,297	2,167	3,218	1,945	478	21,154
<参考>								
各地域の児童数 (小・中・特支・義務教育学校・ 各種学校の合算)	28,715	33,156	12,038	19,807	13,748	12,711	3,136	123,311
各地域の児童数に対する プログラムの参加割合	13.5%	20.6%	18.7%	10.8%	21.5%	15.0%	14.0%	16.5%
(令和3年度の同割合)	(10.7%)	(16.6%)	(15.0%)	(17.0%)	(13.2%)	(6.5%)	(2.9%)	(13.4%)

3 関連する情報

「④民間団体や市町等と連携した文化芸術事業実施数」(地域別)

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	オンライン	合計
芸術文化祭参加事業数	66	37	4	34	16	35	7	0	199
「滋賀をみんなの美術館に」 プロジェクト実施数	28	2	1	9	6	7	0	1	54
美の糸口・アートにどぼん！ 実施プログラム数	52	0	0	0	0	0	0	0	52
ふらっと美の間民間施設設置数	3	0	1	0	0	1	0	0	5
地域出前プログラム実施箇所数	5	5	1	3	1	0	0	0	15
アートコラボレーション事業数	1	2	1	2	2	2	1	0	11
障害者等の文化芸術活動を支える 拠点づくり事業数	0	1	0	0	0	1	0	0	2
近江の春びわ湖クラシック音楽祭 サテライト実施数	0	1	0	0	1	1	1	0	4
びわ湖・アーティスト・みんぐる 実施数	1	0	0	1	0	0	0	0	2
展覧会関連イベント	20	0	0	0	0	0	0	0	20
合計	176	48	8	49	26	47	9	1	364

4 まとめ

- 指標①の1年間に文化芸術を鑑賞したことのある県民の割合は93.4%となっており、目標の85.0%を達成した。若年層を中心に直接鑑賞の割合が低いが、電子機器の利用による鑑賞は40歳代を除くすべての年齢層で8割を超えている。
- 指標②の文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合は34.2%となっており、昨年度から6.9ポイント低下した。年代別では75歳以上を除くすべての年齢層で、地域別ではすべての地域で「整っていない」と回答した割合が「整っている」と回答した割合を上回っているほか、「分からない」と回答した割合が20%を上回っている。
- 指標①②について、県や(公財)びわ湖芸術文化財団では、民間団体等と連携して「「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト」を県内全域で実施したり、「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」等を実施している。
- 指標③の学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数は、「ホールの子事業」において、参加校が負担していた交通費を全額県が補助する見直しを行った結果、県内全域から参加校が集まり、昨年度から2,700人増の9,853人の児童が参加した。
- 指標④の民間団体や市町等と連携した文化芸術事業実施数は、昨年度より66事業増加した。

施策の柱2 人を育む

文化芸術をつなぎ支える人材や文化芸術の創り手や継承者を育む

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 評価と課題

1 施策の実施状況

重点施策3 文化芸術をつなぎ支える人材の育成・確保

- 「文化行政担当者、文化施設管理・運営者向け研修」において、文化活動者を支える行政・文化施設の役割や福祉と芸術のつながり方について行政担当者や文化施設関係者に考えてもらう機会を創出。
- 滋賀次世代文化芸術センターの「美ココロ・パートナーシップ事業」では、適応指導教室や特別支援学校等15校（施設）に美ココロ・パートナーを派遣し、305人の児童生徒等に芸術体験の機会を提供。

重点施策4 文化芸術の創り手や継承者の育成・支援

- 選定保存技術保持者に対し、後継者育成を目的に滋賀県文化財保存事業費補助金を交付するとともに、選定保存技術保持者等に助言を行った。
- 県立文化産業交流会館イベントホール内に特設する芝居小屋「長栄座」において、人と人、地域と地域を結ぶことをテーマとした公演制作事業長栄座伝承会「むすひ」を2日間2公演開催し、405人が来場。当日は、第一線で活躍する実演家とともに古典芸能キッズワークショップ修了生や地元児童合唱団が出演し、創り手や継承者の育成・支援を実施。

施策の柱1・2 共通施策(新型コロナウイルス対策)

- 「文化芸術公演支援事業」では、感染防止対策を実施し、県内文化施設で文化芸術公演を行う利用者に431件20,005千円の施設使用料の補助金を交付。

2 評価指標の状況

評価指標 (把握方法／把握予定時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
⑤ 1 年間に文化芸術の創作活動に携わったことのある県民の割合 (県政モニター調査／4 年 1 1 月)	63.5※ ¹	55.6※ ¹	26.6※ ²	34.2				77.0%
⑥ 研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合 (県事業の実績から算出／4 年 5 月)	—	—	90.7	88.4				80.0%
⑦ 県立文化施設の文化ボランティア数 (県事業の実績から算出／4 年 5 月)	635	592	612	613				750

※1…創作活動のみの割合

※2…令和 3 年度調査から質問項目を変更している。

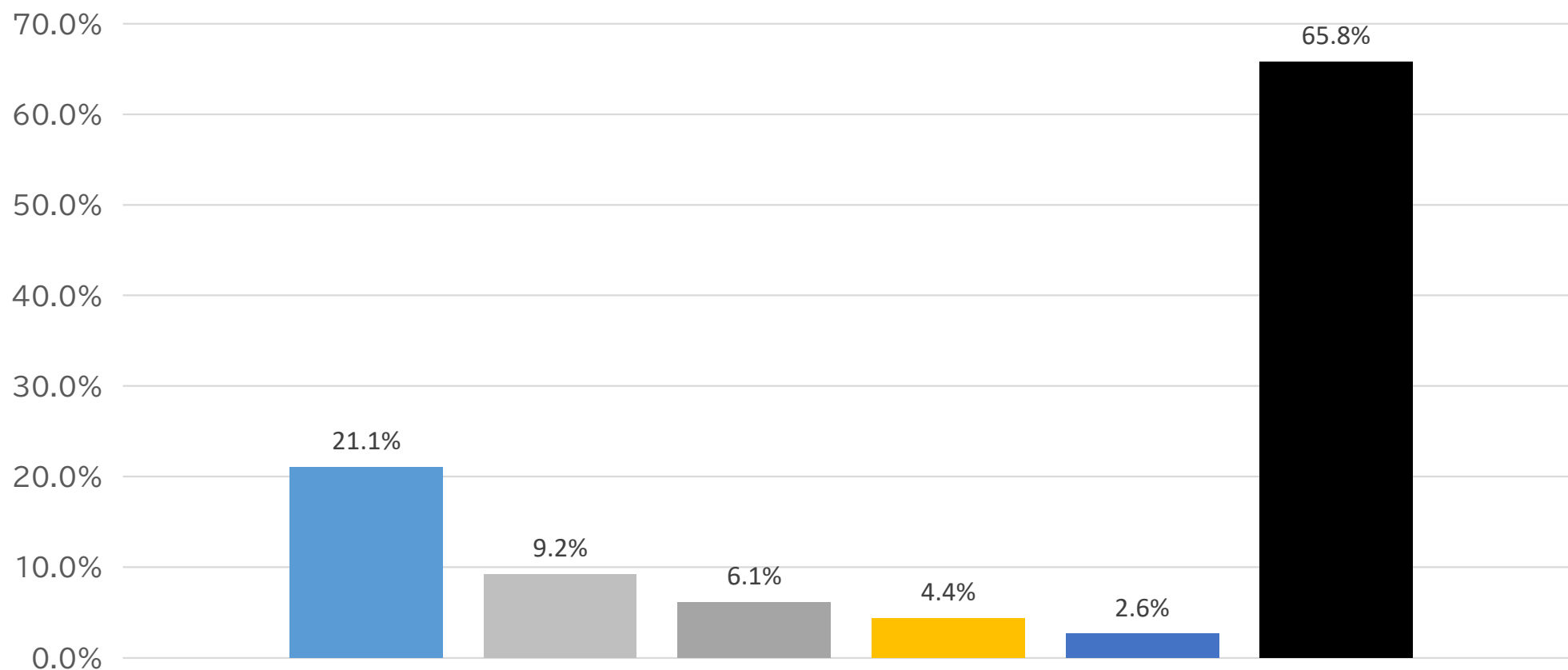
(令和 2 年度)この 1 年間にあなた自身がされた文化創作活動は何ですか。

(令和 3 年度)過去 1 年間に、あなたは文化芸術活動を行いましたか。ただし、「鑑賞」のみの場合は除きます。

3 関連する情報

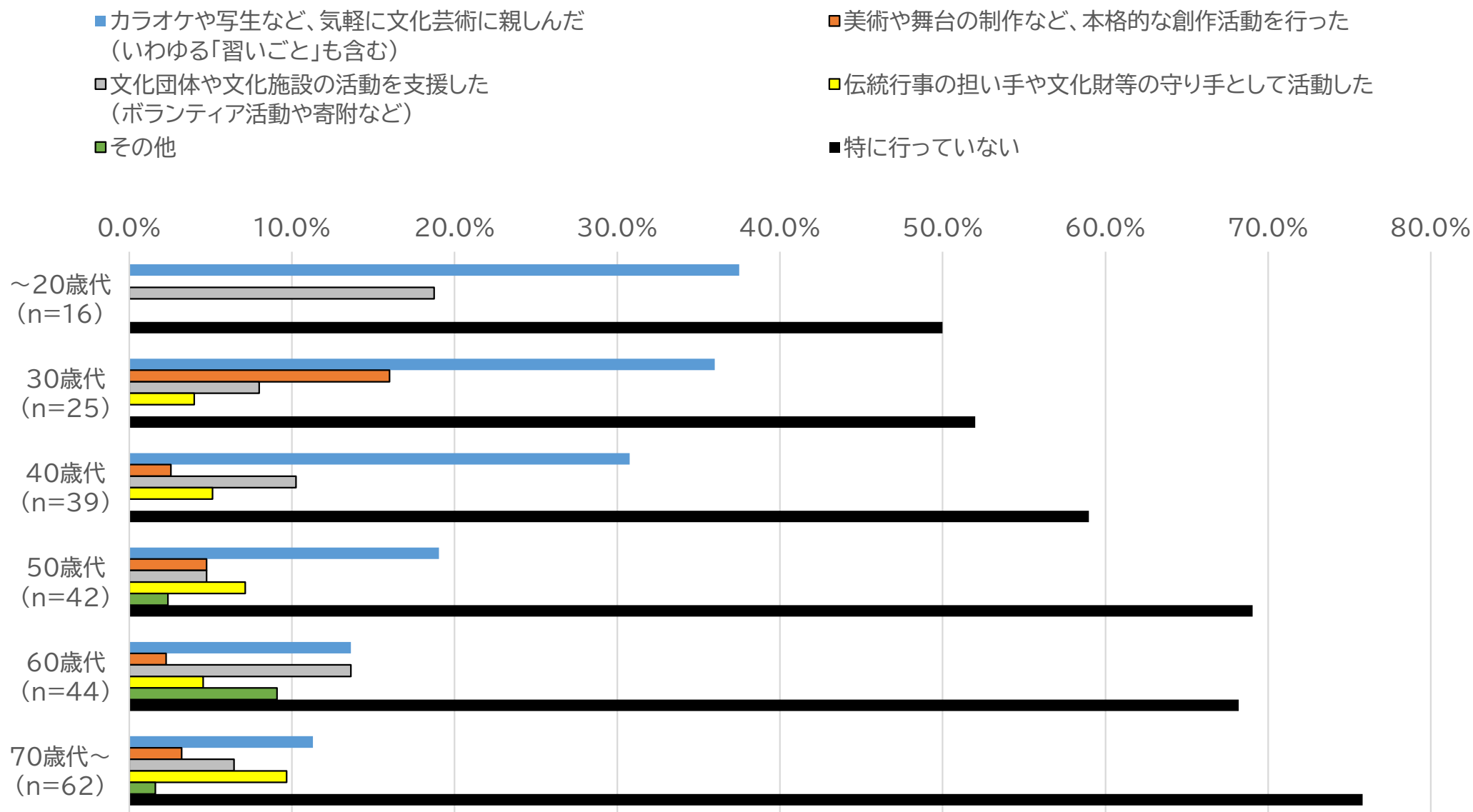
創作活動の内容別の割合(評価指標⑤関連)(n=228) ※複数回答可

- カラオケや写生など、気軽に文化芸術に親しんだ(いわゆる「習いごと」も含む)
- 文化団体や文化施設の活動を支援した(ボランティア活動や寄附など)
- 伝統行事の担い手や文化財等の守り手として活動した
- 美術や舞台の制作など、本格的な創作活動を行った
- その他
- 創作活動は特に行っていない



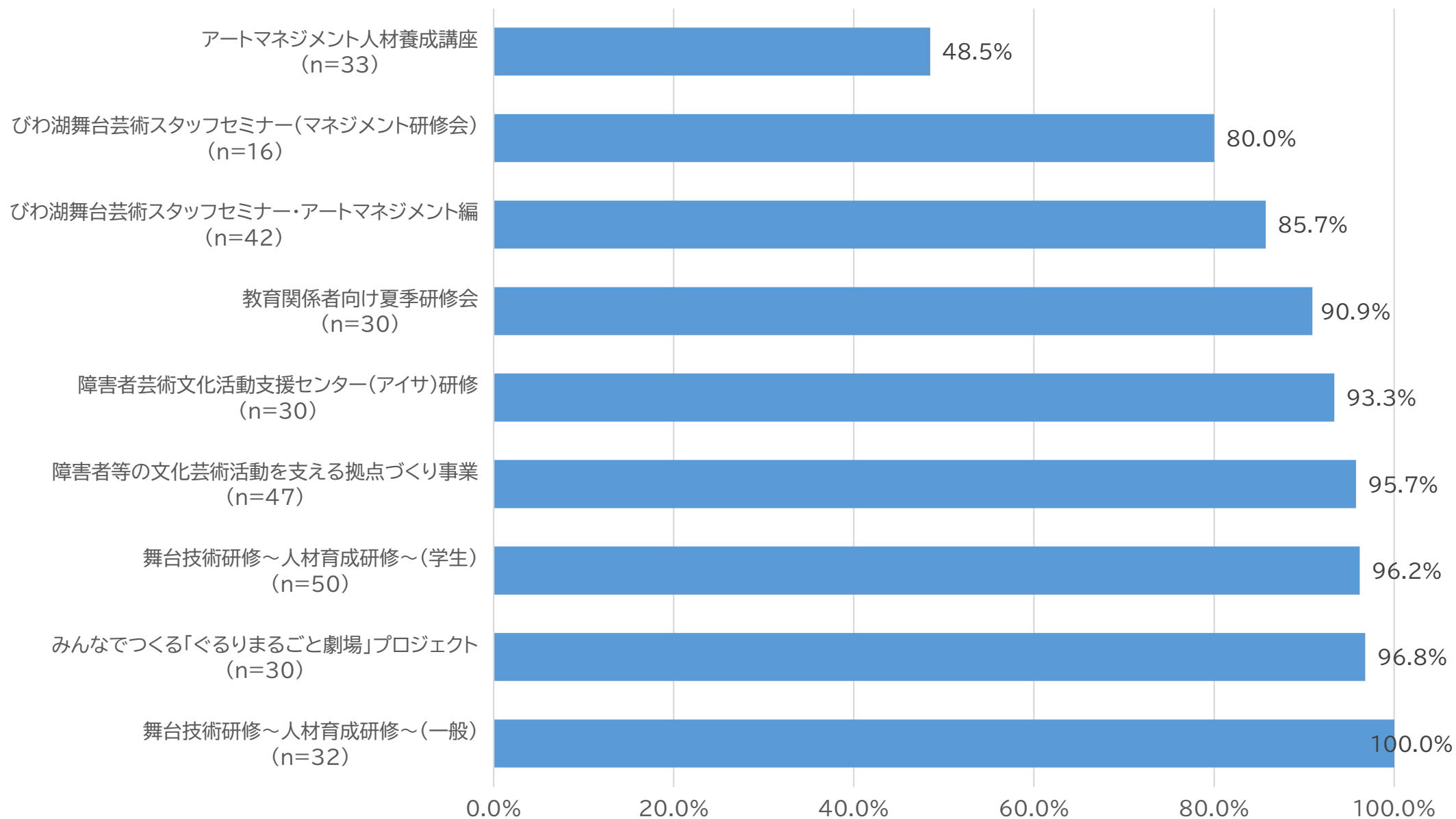
3 関連する情報

創作活動別の内容別の割合(評価指標⑤関連)(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

「⑥研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合」(事業別)



3 関連する情報

「⑦県立文化施設の文化ボランティア数」(地域別)

単位:人

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	県外	合計
びわ湖ホール劇場サポーター	70	10	1	6	0	2	1	42	132
美術館ボランティア	21	8	1	2	0	0	0	3	35
琵琶湖博物館はしかけ制度									404
滋賀次世代文化芸術センター登録ボランティア	0	0	11	0	0	0	0	5	16
陶芸の森登録ボランティア	7	9	5	2	1	0	0	2	26
合計	98	27	18	10	1	2	1	52	613

4 まとめ

- 指標⑤の1年間に文化芸術の創作活動に携わったことがあると回答した県民の割合は、昨年度、質問内容において質問内容において「鑑賞のみ」を除くことを強調した結果大幅に下落したが、令和4年度実績は34.2%と前年度から7.6ポイント上昇した。
- 指標⑥の研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合は88.4%と、昨年度から2.3ポイント低下したものの目標値を上回った。
- 指標⑦の県立文化施設の文化ボランティア数は策定時から県外の方を中心に22人減少した。琵琶湖博物館ボランティアは昨年度から増加しており、今後も文化ボランティアの確保に努めていく。
- 新型コロナ対策として文化芸術活動支援事業を実施し、令和4年度は施設使用料の1/2を支援することにより、文化活動者の活動継続につなげた。令和5年度は補助率を1/4に引き下げ、4月1日から9月30日までの公演等に対して支援を行っていく。

施策の柱3 地域や社会に活かす
文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かし、活力ある滋賀を創る

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 評価と課題

1 施策の実施状況

重点施策5 地域で育まれてきた文化的資産の発掘・保存・活用

- 令和3年3月に策定した、(仮称)新・琵琶湖文化館基本計画に沿って整備を推進。設計・建設・管理運営を一括発注するPFI事業として、令和5年7月に事業落札者の決定を行うなど、令和9年度の開館に向けて、基本計画のスケジュールに沿って事業を推進。
- 彦根城の世界遺産登録に関して、学術会議や国際会議での議論を通して重点的に調査・研究を進めるとともに、彦根商工会議所、滋賀県立大学と協働した寄附講座の実施や、県内外でのシンポジウムの開催などにより発信に努めた。なお、今年度、国の文化審議会世界文化遺産部会より、ユネスコの事前評価制度の活用が有効との意見が出された。
- 特別史跡安土城跡整備基本計画策定が完了し、デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本設計を実施。「安土山図屏風」探索に向けてHPの公開とチラシ配布を継続。なお、令和5年5月には大杉副知事がバチカンを訪問して高官5名に知事の親書を渡し、今後の交流と屏風探索への協力を約束いただいた。

重点施策6 文化芸術と他分野との有機的な連携の促進

- アール・ブリュットネットワークメールマガジンを22回発行し、アール・ブリュットに関わる情報を発信。また、アール・ブリュットネットワークフォーラムを開催。
- 子ども・若者が文芸活動を通じて、滋賀の歴史、風土、文化および自然等の魅力を発見し、発信することを目的として高校生俳句コンクールを開催した。また、滋賀の名所を歩いて巡り、俳句を作るイベント「近江まちさんぽ」を県内3か所で開催した。
- 文化活動者と経済界で組織されている文化・経済フォーラム滋賀の活動に対して補助金を交付。文化・経済フォーラム滋賀では、近江鉄道とその沿線を会場に、電車を使ったツアー型ライブや地域コーディネーター育成講座などを実施。

2 評価指標の状況

評価指標 (把握方法／把握予定時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
⑧県内の指定文化財等の数 (国・県・市町の指定等実績から算出 ／令和4年5月)	3,465	3,500	3,522	3,553				3,585
⑨文化財を活用した県実施事業参加者数 (県事業の実績から算出／令和4年5月)	2,813	3,017	3,337	3,611				3,160
⑩地域に魅力や誇りを感じる文化芸術 資源があるとする県民の割合 (県政モニターアンケート／令和4年11月)	—	—	70.7	81.1				85.0
⑪地域において文化芸術と他分野との 連携した取組があるとする県民の割合 (県政モニターアンケート／令和4年11月)	—	—	60.9	66.7				50.0

3 関連する情報

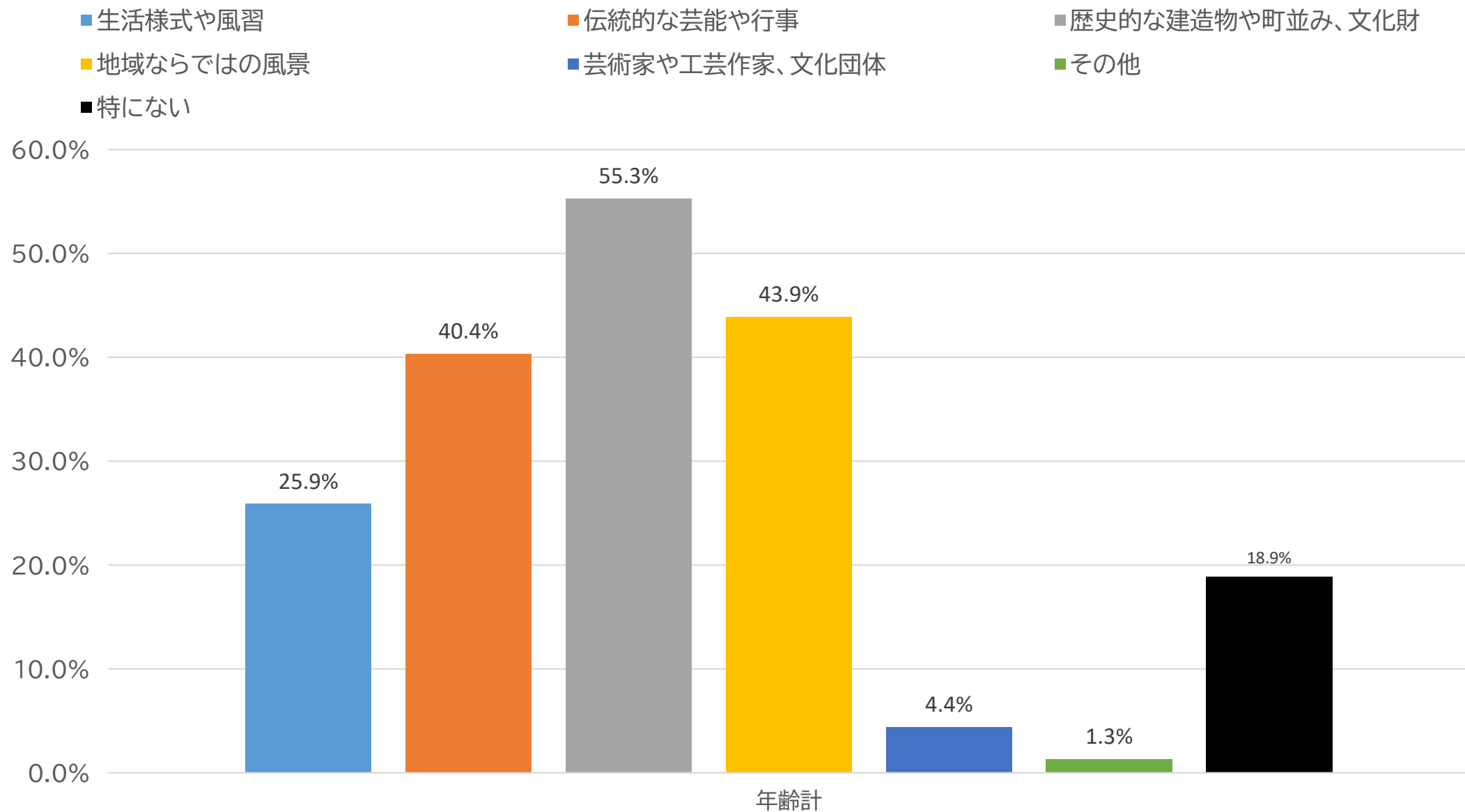
⑧「県内の指定文化財等の数」(地域別)

単位:件

	大津	南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	県内一円	合計
国指定	468+1/2	137+2/3	129+1/3	347+1/2	160	169	32	2	1,446
県指定	91	71	57	102+1/2	48+1/2	125	23	6	524
市町指定	126	253	211	355	172	344	122	0	1,583
合計	685+1/2	461+2/3	397+1/3	805	380+1/2	638	177	8	3,553

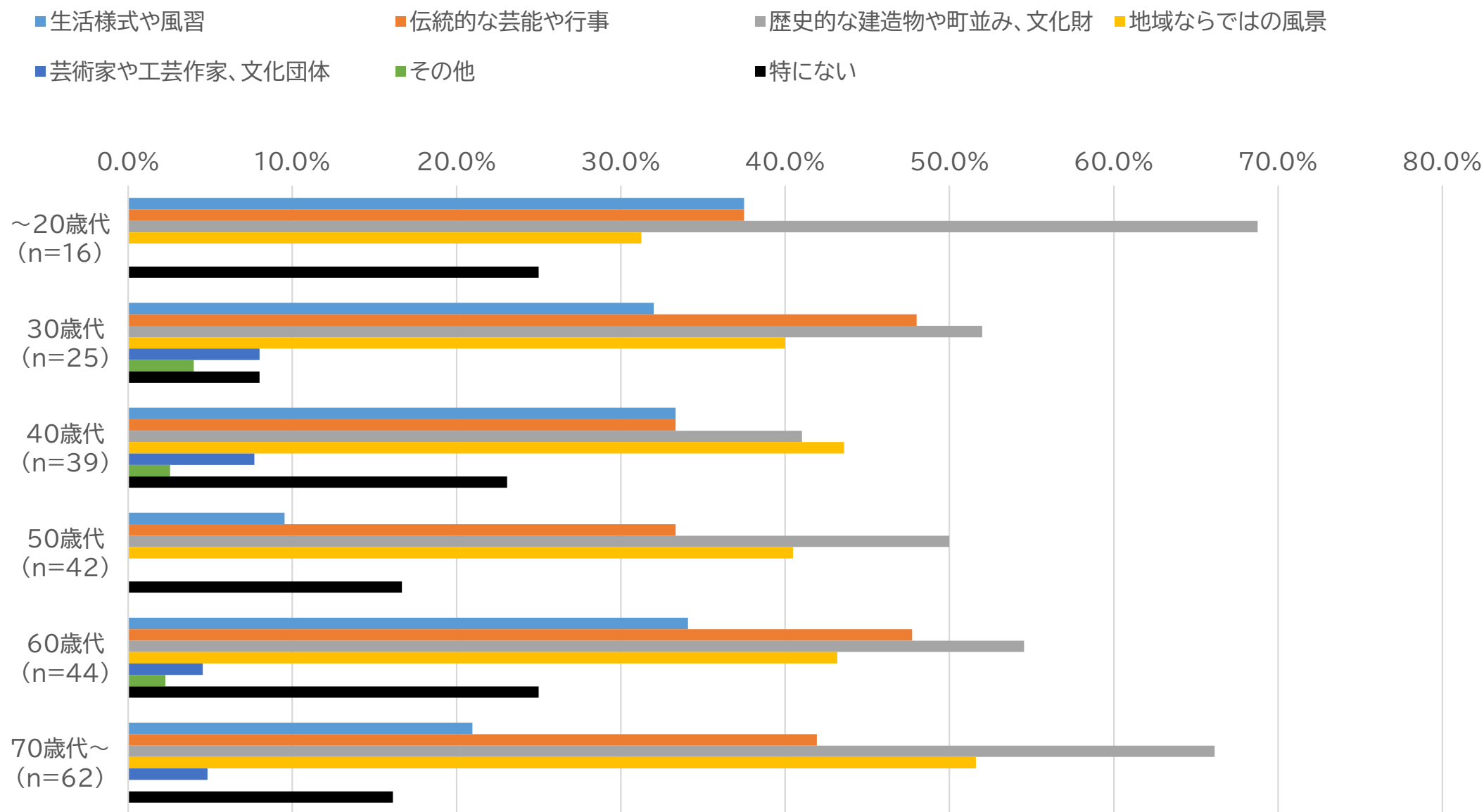
3 関連する情報

魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)(n=228) ※複数回答可



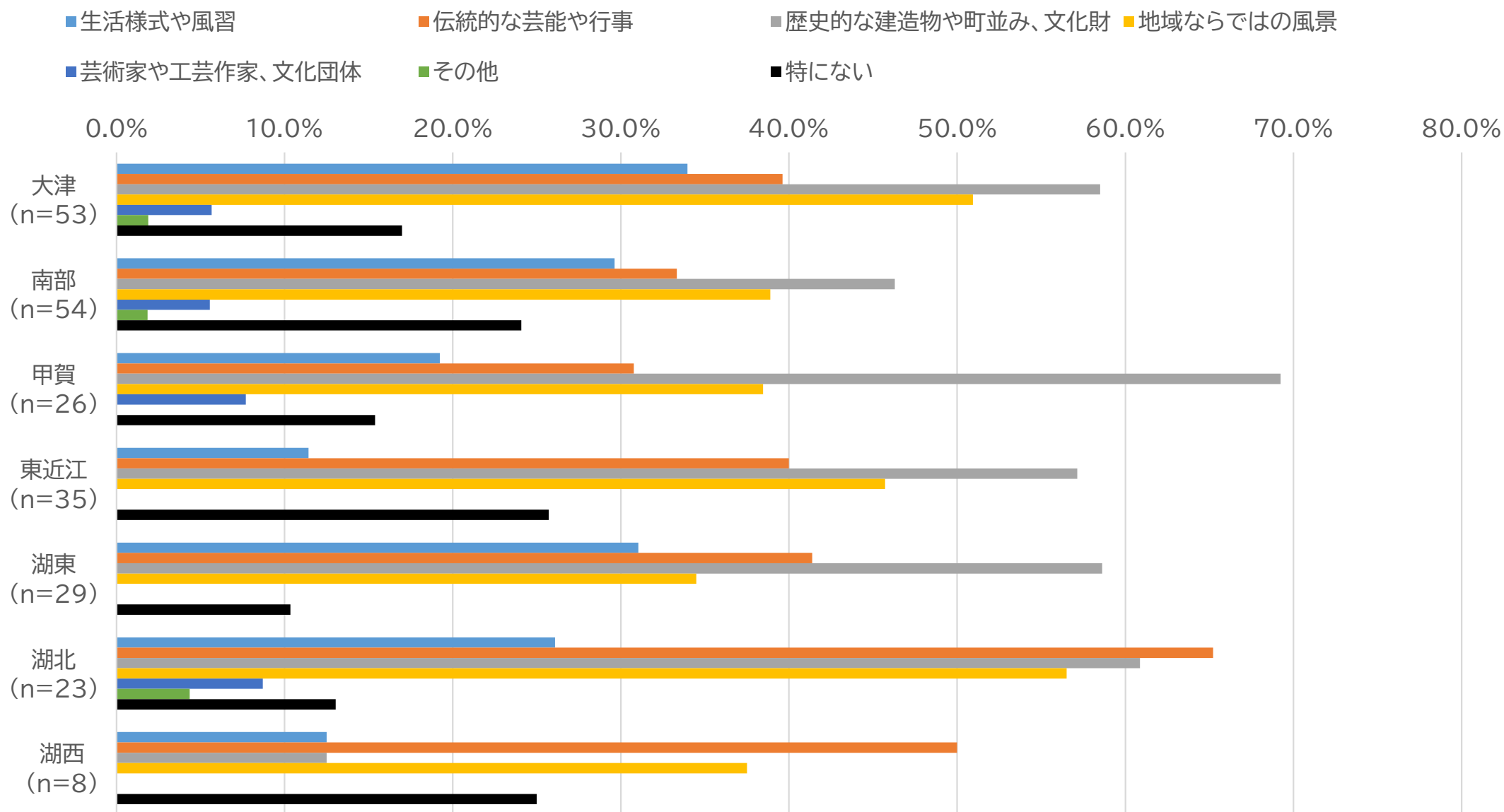
3 関連する情報

魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

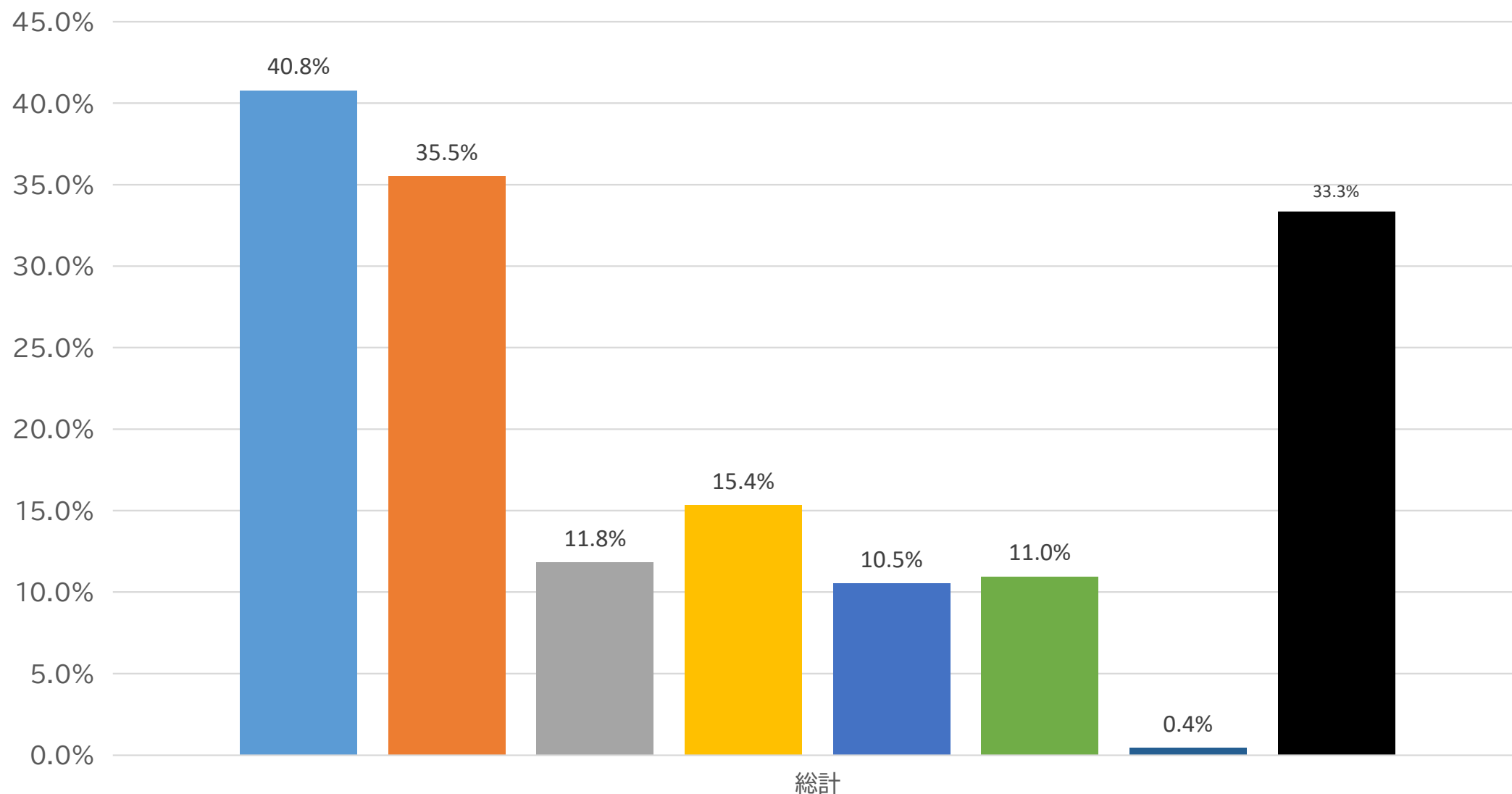
魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)(地域別) ※複数回答可



3 関連する情報

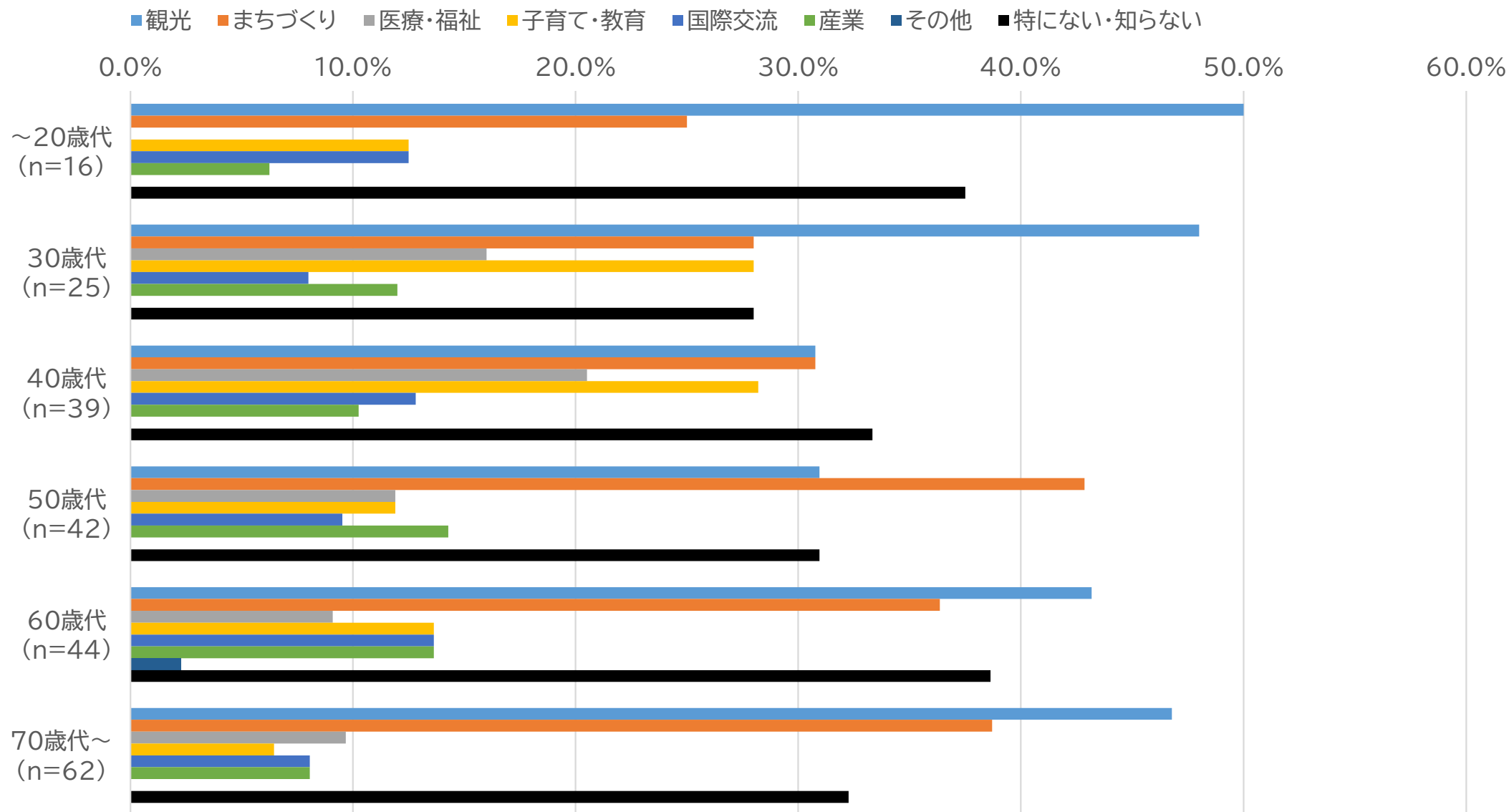
地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)(n=228) ※複数回答可

■観光 ■まちづくり ■医療・福祉 ■子育て・教育 ■国際交流 ■産業 ■その他 ■特にない・知らない



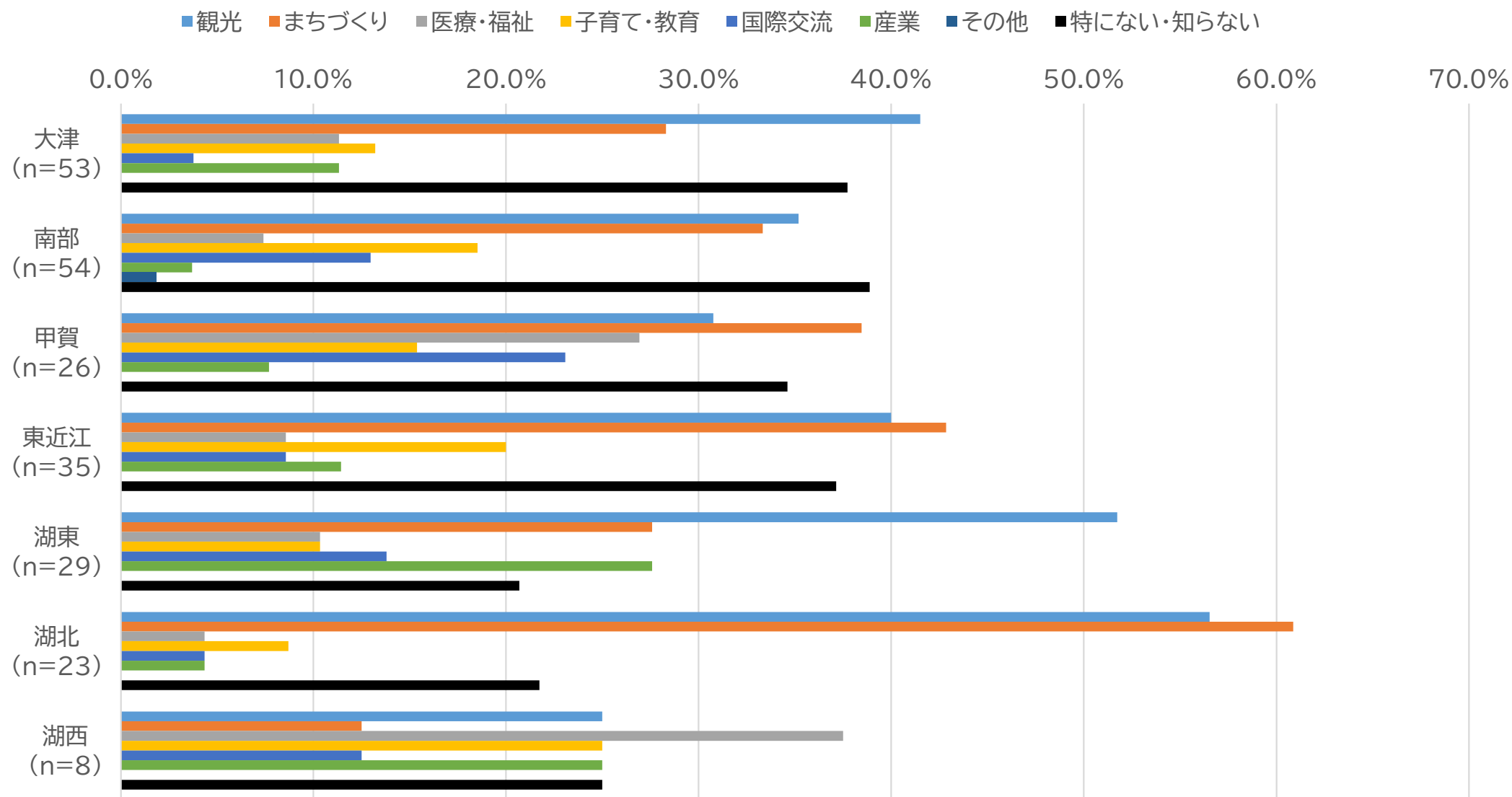
3 関連する情報

地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)(地域別) ※複数回答可



4 まとめ

- 指標⑧の県内の指定文化財の数は策定時から88増加した。また、指標⑨の文化財を活用した県実施事業参加者数は策定時から798人増加し、2年連続で目標を達成した。
- 指標⑩の地域に魅力や誇りを感じる文化芸術資源があるとする県民の割合は81.1%と前年度から10.4ポイント上昇した。
- 指標⑪の地域において文化芸術と他分野との連携した取組があるとする県民の割合は66.7%となり目標を上回った。

全体総括

- 11の評価指標のうち、令和7年度までの目標値を達成した指標は4指標となった。
- 文化芸術の鑑賞方法については、全ての年代でデジタル鑑賞の割合が概ね80%を上回るなど、デジタル鑑賞が一般化している。
- 県政モニター調査では、年齢・地域に関わらず、県内の文化芸術資源の有無やその活用方法について、知らない割合が2～3割程度おり、文化芸術施策の広報強化が必要である。